

評価の各評語の水準について

S	年度計画を大幅に上回って実施している	年度計画を上回る実績・成果をあげている項目のうち次に掲げる条件に該当する項目 ・定量的目標が定められている項目について、目標の水準を大幅に上回る実績・成果をあげている ・実績・成果が卓越した水準にある ・都政・都民の新たなニーズに迅速に対応した取組により高い実績・満足度を実現している ・上記の各項目に準ずる実績・成果をあげている
A	年度計画を上回って実施している	年度計画を上回る実績・成果をあげている項目で、S評定には該当しない項目
B	年度計画を概ね順調に実施している	年度計画に記載された事項をほぼ100%計画どおり実施している項目
C	年度計画を十分に実施できていない	実績・成果が年度計画を下回っている項目で、D評定には該当しない項目
D	業務の大幅な見直し、改善が必要である	実績・成果が年度計画を下回っている項目のうち次に掲げる条件に該当する項目 ・定量的目標が定められている項目で、実績・成果が目標の水準を大幅に下回っている ・提供すべきサービス、財務内容、その他業務運営に重大な瑕疵がある ・実績・成果が上記の各項目に準ずる水準に止まっている

各標語の水準のイメージ

各標語の水準の目安の考え方

- 定量的計画が定められている場合を例として、各評語の水準のイメージを共有する。
- ※ 右図のイメージは、実績を各評語の水準に当てはめ、機械的に評定することを意図するものではないことに留意する。
- 実際の評価に当たっては、計画の難易度、外的要因、取組の経緯・経過等を総合的に勘案して評定する。
- 実績と計画との対比によらず、実績の絶対的水準、ニーズへの即応性、業務運営上の重大な瑕疵等を理由に評定することを妨げない。
- 法人の業務の特性に応じて、異なる評語を用いることなど、分科会ごとの調整を可能とする。

